

編 集 後 記

リハビリテーションは、本来 comprehensive な概念であるが、それをあえてこの雑誌に“総合”の語を冠した理由は、その総合性を特に強調したものと考えてよいと思う。リハビリテーションに関連のある各領域の情報が今後とも幅広く収載されることであろう。

この第2号においても医学以外の領域の方々に数多く御協力をいただいたことを心から感謝する。リハビリテーション行政はまだ chaos の中にあるといつてよからうが、これに関する鈴木正里先生と今田拓先生の論説は、われわれにリハの本質とリハ医療のあるべき姿についての再考察の機会をあたえられた。リハは十分 pay するものであるとの声は、リハの先進国であるアメリカでよく聞かれるが、リハが pay するものであろうとなかろうと、その本来有している人道的立場が忘れられては大変なことである。

医学面では第2号は第1号に引きつづいて“片麻痺の

リハビリテーション”の特集を行なった。この中の外科的治療を担当された小野・三島・田川の三先生は、昨春の日本リハビリテーション医学会の同テーマのラウンドテーブルディスカッションの演者であり、この領域のわが国における最尖端に立つ方々である。専門科としてのリハ医学は非観血的治療医学に属するものであり、片麻痺に対する整形外科手術はリハ専門医の必修項目ではないが、整形外科医とよく連絡をとり、これらの外科手術を利用することは、患者の機能回復のレベルを高めるために極めて有用な手段であると思われる。

なお、第3号・第4号では慢性関節リウマチのリハビリテーションの特集が予定されているが、今後もつぎつぎと各種の特集を続けていく予定であり、この点に関して読者の御意見・御希望をお寄せいただければ幸甚である。終わりに紙数の都合上すべての掲載論文について紹介できなかったことをおわびする。 (横山 巖)

次 号 予 告 (1 巻 3 号)

巻 頭 言	ササラとタコツボ	砂 原 茂 一 (国立療養所東京病院)
特 集	リウマチのリハビリテーション I	
	症状と診断	塩 川 優 一 (順天堂大)
	治療とリハビリテーション	児 玉 俊 夫 (岡山大)
	薬物療法	間 得 之 (中伊豆温泉病院)
	理学療法	久 保 公 男 (中伊豆温泉病院)
	スプリントと自助具	岡 崎 健 (七沢病院)
	小児リウマチのリハビリテーション	大 国 真 彦 (日大)
総 説	片麻痺の上肢 (2)	福 井 罔 彦 (七沢病院)
講 座	末梢神経の損傷と再生 (3)	初 山 泰 弘 (国立身障センター)
	医学的リハビリテーション施設の	
	計画—その2—	陳 慧 玉 (東京都老人総合研究所)
	リハビリテーションと福祉制度 (2)	高 田 玲 子 (伊豆通信病院)
ひ と	佐野精司グループ	佐 野 孝 三 (日大)
セ ミ ナ ー	ライト博士を囲むセミナー	辻 村 泰 男・他 (国立特殊教育総合研究所)
学 会 報 告	6th International Congress of Physical Medicine	大 島 良 雄・他 (埼玉医大)
海外だより	インドのリハ施設を訪問して	江 口 寿 栄 夫 (高知県立子鹿園)